

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： 巧緻性

活動 指先の巧緻性

ボタンのはめ外しに挑戦し、つなげていくと長くなることを体験する

環境をデザインする

●準備した物

ボタンのついたフェルト

探究活動を実践する

●活動内容

どうしたら長くなるか考える

ボタンのはめ外しに挑戦する

「同じ」「違う」「長い」「短い」を体験する

●子どもたちの様子

ボタンがすぐにはわからない様子だったが、服のボタンを見せると、子どもたちは興味をもってじっと見つめていた。ボタンの付いた布の数を問うと、「3本！」とすぐに声があがった。2本ずつつなげたものを頭や腕、首にかけたり、4本つないで四角形を作ったりと、それぞれの発想で取り組む様子が見られた。なかなかつなげられなかった子が、3本をつなげられたときには「できた！」と笑顔を見せ、長くなったことを喜んでいた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

姿勢の保持が難しい子の姿が目立ったので、保育士が支えたり、声を掛けるなどの工夫を行った。保持を続ける事が難しいようで支えがないとすぐに元に戻ってしまった。ボタンを付ける・外す活動を行ったが、講師の説明を聞いていたがやり方が分からず戸惑ってしまう子が数名いた。途中までやってみるがすぐに「できない」と言う子、最後まで諦めずに頑張ってみようとする子、すぐに取り外しがスムーズにできる子など個人差が目立った。

講師より

馴染みのなかったボタンの実物を見て関心を持ち、ボタンをはめることを通して、しっかり指先を何度も使うことができた。難しそうにしていた子供も少し手伝うことでやる気もち直し、最後までボタンをつなげることができた。ボタンをつなぐ中で、思い思いの工夫や表現が広がり、達成感を味わい、長さや形が変わる面白さにも気づくことができた。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 数唱、集合数

数を正確に数え、数字と量の一致を理解する

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年7月25日
時 間	30 分
参加人数	10 人

環境をデザインする

●準備した物

積み木

探究活動を実践する

●活動内容

お話の中で数をさがしてみる

数に合わせて積み木を並べてみる

部屋の中で数を探す

●子どもたちの様子

並べることで正しく数を数えられることにも気づき、「リンゴは全部でいくつあるかな？」という問いに「3つ!」と自信をもって答える姿が見られた。指で3を示すのは少しあやふやな様子も見られたが、3回手をたたくのは進んで参加していることがうかがえた。カードと同じ数の積み木を取る場面では、3個の積み木を数えながら取る様子が見られた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

クレヨンが必要とのことで自分の目の前に準備していたこともあり、気になってしまい無意識に触るなどの姿が見られた。活動には意欲的に取り組んでいるように見えたが、講師の指示を言葉だけで理解して実際にやってみることが難しい様子があったものの「3」という数字にはどの子も「わかる」という気持ちになっている様子だった。

講師より

りんごのカードや積み木といった具体物を使うことで、集合数「3」の理解が深められた。手をたたく、積み木を取るといった活動に興味をもって取り組むことができた。数を問われ、自ら確認し、自信をもって答える姿もみられた。今後も子どもたちが数の興味を持ち続けられる機会をつくっていきたい。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 量

重さ比べ、水の量の不思議を視覚と触覚を通して体験する

環境をデザインする

●準備した物

重さくらべの箱、色水、透明の大きさの異なる入れ物

●活動内容

重さを持って比べる

入れ物により見た目が違う不思議を体験する

●子どもたちの様子

同じように見える箱を比較して、クラス全員がさまざまな視点から「同じところ」「違うところ」を見つけ出そうとする姿が見られた。重さの違いについては、試しながら考える中で「同じ人が両方を持たないと比べられない」と、共通の認識にたどりついた。水の見え方の違いは、容器の形状の違いによる差は理解しつつも、本当は同じ量であることに不思議さを抱き、秒数をもとに推測するなど、自分なりに考える姿がみられた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

2つの箱を準備し、「どちらが重いか」と子どもたちに投げかけた。子どもたちは箱を手取る前に「こっちの方が重そう」と予想し答えていた。その後、一人ずつ箱を持ち比べてどっちが重いのかを改めて答えていた。また、同じ量の水を準備し、違う大きさのビーカーに入れた。ビーカーの大きさが違うため、細いビーカーは水位が高くなり、太いビーカーは水位が低くなった。子どもたちの前で水の入替えをしたが、ほとんどの子どもたちは水位が高い方が水量が多いと答えていた。

講師より

見た目が似ている箱や、同じ量の水を入れた容器を比べる活動を通して、子どもたちは「同じ」「違う」を自ら見つけ出すことができた。話し合いの中で気づきを共有しながら考えを深め、一つの結論に達し、実際にその方法で確認することができた。水の見え方の違いでは、驚きや不思議さを感じながらも、自分なりに考え、発言する姿から子どもの「探求したい」という気持ちが伝わってきた。今後も子どもたちの自発的に考えようとする姿勢に寄り添っていきたい。